

南米東岸航路 運賃上昇

5月から6月に掛けて、運賃水準の低迷が続いていた南米航路で、急激な運賃の見直しが成されました。特に南米東岸のサービス自体の合理化が行われ、大幅な値上げの大きな要因となりました。昨年までは日本発の南米東岸サービスは7つ運行されておりましたが、今春は4サービスへ削減し、その船腹量はおおよそ半数となりました。その値上げを皮切りに南米西岸、カリブ向けも運賃修復が行われ、ここ数ヶ月間で南米全体を取り巻く状況は大きく変化しました。スペース確保はもちろん、アンダーデッキの確保、FREETIMEの延長に関する融通が効き難くなってきております。動向として南米東岸についてはこのサービス状況のまま、仮にブラジル景気が回復していけば、更なるレートの上昇が見込まれる可能性も充分にございます。サービスや運賃に関するご相談がございましたら、何なりとお申し付け下さい。

名古屋本社 海外営業部：大和 ダニロ



日刊CARGO 6/24記事より引用

南米東岸航路

運賃、6週連続上昇 サービス合理化で潮目に変化

南米東岸航路の運賃が、6週連続で上昇している。これは、船腹の確保とサービスの合理化によるものである。特に、アンダーデッキの確保とFREETIMEの延長に関する融通が効き難くなってきている。また、南米東岸のサービス自体の合理化が行われ、大幅な値上げの大きな要因となった。昨年までは日本発の南米東岸サービスは7つ運行されておりましたが、今春は4サービスへ削減し、その船腹量はおおよそ半数となった。その値上げを皮切りに南米西岸、カリブ向けも運賃修復が行われ、ここ数ヶ月間で南米全体を取り巻く状況は大きく変化しました。スペース確保はもちろん、アンダーデッキの確保、FREETIMEの延長に関する融通が効き難くなってきております。動向として南米東岸についてはこのサービス状況のまま、仮にブラジル景気が回復していけば、更なるレートの上昇が見込まれる可能性も充分にございます。サービスや運賃に関するご相談がございましたら、何なりとお申し付け下さい。

南米東岸航路の運賃が、6週連続で上昇している。これは、船腹の確保とサービスの合理化によるものである。特に、アンダーデッキの確保とFREETIMEの延長に関する融通が効き難くなってきている。また、南米東岸のサービス自体の合理化が行われ、大幅な値上げの大きな要因となった。昨年までは日本発の南米東岸サービスは7つ運行されておりましたが、今春は4サービスへ削減し、その船腹量はおおよそ半数となった。その値上げを皮切りに南米西岸、カリブ向けも運賃修復が行われ、ここ数ヶ月間で南米全体を取り巻く状況は大きく変化しました。スペース確保はもちろん、アンダーデッキの確保、FREETIMEの延長に関する融通が効き難くなってきております。動向として南米東岸についてはこのサービス状況のまま、仮にブラジル景気が回復していけば、更なるレートの上昇が見込まれる可能性も充分にございます。サービスや運賃に関するご相談がございましたら、何なりとお申し付け下さい。

名古屋港 本船見学



こんにちは。名古屋本社外勤営業の日比野です。普段は東海地方や西日本を中心にお客様を訪問しておりますが、今回は弊社のお客様である大手工作機械メーカー様からのご要望により、名古屋港にある飛島コンテナ埠頭(TCB)の見学に行ってきました。弊社と取引がある船会社様に依頼をして、乗船見学と日本初となる自動化コンテナターミナルであるTCBの見学をさせていただきました。TCBは大型ガントリークレーン6基、移動式ガントリークレーン(オペレーターによる遠隔操作をしています)で24基、AGV(ターミナル運行管理システムから無線通信により自動制御されている無人のコンテナ搬送用台車)33台を保有する国内でも最先端のターミナルとなりますが、なかでもAGV(写真)にはビックリさせられました。今から出港する船に積むコンテナ、到着した船から降ろしたコンテナをターミナル内で移動させる台車の様な車が、音楽を流しながら、無駄のない動きで動き回っております。また、乗船見学は欧州に向かう大型船(20'DRYコンテナに換算すると約10,000本)の中に入り込み、ガントリークレーンでドライコンテナを積み込むところや

巨大なエンジンルームも見せていただきました。参加された大手工作機械メーカー様の方々は普段の業務では見ることができない部分を見学することができ、非常に喜んでいただけました。

名古屋本社：日比野 弘嗣

